

# 家族

核家族化、女性の社会進出、少産化、高齢化……。どう変わるのか、これからの「家族」が時代の波に揺れている。「家庭と暮らし」欄では今年、「家族」を年間テーマとして、現代のさまざまな家族のあり方の中から、その多様性を探ってきたが、ますます変化の速度を増している社会の中

## 明日に向けて

お互い独立性を保ちつつ、お互い独立を保ちつつ、まぐらっていきけると思っ。ところが、結婚した途端、彼女は変わった。僕に世間に対して「立派なダンナさん」という役割を過剰に演じさせる。息苦しくな。一度の経験から「僕は結婚というシステムに向いてない」という結論を出した。僕は何もみんなが結婚を拒否すべきだ、なんて思わない。ただ「向かない」人間にまで結婚を強制する社会におかしい、と思う。結婚と非婚の間にいろんな形態が。もう一つは再生産の場と。子を生み、疲れをい

### ① シングルの立場から



吉廣紀代子さん。フリーライター。「非婚時代」「スクランブル家族」などの著書がある

そうした国の政策によって、ここ十年ほどで、再びこれが強化されているのを感じ。一人っ子時代になり、しかも豊かで、私有財産も増えて、余計、その圧力が強まっている。多様なスタイルが可能になるためには、法制度の上で、「家」や「家族」よりも「個人」が基本単位と

注いでいた。一人の男と相思愛の関係になり、結婚かどうしようかと迷った。しかしその男と結婚して、仕事を続ける、というのは不可能だった。さんざん悩み抜いて最後は、半ばその苦しみから抜け出したい一心で「やめたい」と決めた。決めたら、すぐ気分が楽になり、初めて、自分は好きになった男と毎日向き合ってみると汗かきで、あんな、平穏な家庭生活はあまり望んでいないことがわかった。

## 結婚・非婚・自由な発想で



婚、離婚している。一、度目は二十代、法律婚ではなく同棲だった。「家庭を築く」という発想を持って、生活を共有してなかったからか、彼女は適齢期になると、当たり前前の結婚を求めて去っていった。三十三の時、今度

あつていい。「完べきな結婚」というのが男と女が一〇〇%人生を重ね合わせて「家庭」という枠にスッポリと納まるものだとしたら、男と女がお互いその円を少しづつ擦ること、いくらかの自由を確保し合える。人間が家族を必要とする理由にはいくつもある。ま

最近では晩婚化して、仕事を持って女の人の場合、三十くらいになってやっと結婚を考へる。その時、うまく相手が見つからない、先延ばしされて三十代半ばになる。そのあたりが子供を産むタイムリミットだから、そこでの決断の仕方、シングルでいくか家族を持つか、の分かれ目になる。いろんな条件をす

吉田清彦さん。フリーライター、今年、シングルの生き方を選ぶ若い人たちと「確信犯? シングルの会」を結成した

た。三十三の時、今度理由にはいくつもある。また、相手は三十歳で仕けるまでの期間、保護養育一つに「家名、血の存続」と「全エネルギーを仕事に

生薬配合の内服薬

### ちれん

●レンシンは、蓮華を主体とし、棉花、生姜、センナを加えた飲みグスリです。  
●朝食前と就寝前に1包ずつお飲み下さい。  
●痛み、出血、はれを止め、排便をスムーズにします。  
●痛み、出血が止っても、しばらくお続け下さい。